

○議長（初村 久藏君） 日程第1、会派代表質問を行います。

本日の登壇は、1会派を予定しております。

それでは、通告により発言を許します。対政会、1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 皆様、おはようございます。1番議員の糸瀬雅之です。

本日は、令和4年第1回定例会の会派對政会を代表いたしまして質問させていただきます。

今日は、支援者の方から「あんまりぎしゅまんごと頑張ってこい」と言われていますので、落ち着いて質問をさせていただきたいと思います。

今年に入り、1月から、やはり恐れていました新型コロナウイルスのオミクロン株の感染が、対馬市において第6波の影響が出ております。連日、対馬市内でも数名の感染者の報告が確認されております。

観光業界や、飲食店の時短要請など、コロナ禍で影響を受けておられます対馬市民の皆様、今まさに大変なときではございますが、過去を振り返ることなく前向きに頑張ってくださいと思います。

それと、2月20日の長崎県知事選挙において、39歳の若さで当選をされました大石賢吾知事におかれましては、お祝いを申し上げますとともに、長崎県、そして対馬市発展のためにも御尽力いただきたいと思います。

それでは、通告に従いまして、会派代表質問をさせていただきます。

第2次対馬市総合計画（後期計画）には、4つの挑戦がございます。

今回は、ひとつづくりに関連した子育て世代の支援、若者の移住・定住について4点質問させていただきます。

まず、1点目は、保育施設の備品及び環境整備についてでございますが、対馬市内には、認定こども園や保育所、幼稚園といった施設が各地にございますが、ほとんどが旧6町時代からの建物であり、老朽化が進んでおり、対馬市として今後、施設内の備品、空調設備、遊具設備について、子供たちが通いたい、保護者が通わせたいと感じられる環境整備にどのように取り組んでいけるのか、市長の答弁をお願いいたします。

次に、2点目は、2年間に及ぶコロナ禍で対馬市民の経済的負担軽減措置として、昨年6月にも一般質問をさせていただきました子ども夢づくり基金の子育て世代への島外遠征費の旅費の見直しについて質問させていただきます。

日韓関係の影響や、新型コロナウイルスの感染拡大により、対馬市の様々な業種で働いている方々には、何らかの経済的な影響を受けておられると思います。国や県、対馬市からの様々な給付金や補助金を頂いておりますが、現状ではなかなか厳しい経済状況であります。

子育て世代の保護者にとりましては、大半が共働き世帯が多く、子供たちがやりたいスポーツ

や文化活動、習い事、みんな保護者は子供の成長のために精いっぱい働き、家計のやりくりをしながら頑張って子育てをしておられます。

対馬に生まれてきた子供たちは、離島のハンディを背負いながら県大会へ試合に行き、そこで様々な経験をし、成長していております。子供たちに親は選ばません。裕福な家庭、独り親家庭、経済的に厳しい家庭など、様々な家庭環境がございます。子供たち、そして保護者が安心して島外のスポーツ、文化活動の大会に行けますよう、補助金の交付基準の見直しの検討はできないか答弁をお願いいたします。

3点目ですが、特別支援学校（小学、中学部）の設置に向けた取組と進捗状況について質問させていただきます。

第2次対馬市総合計画33ページにも掲げてありますように、「特別支援学校（小中学部）の設置に向けた取組を強化する」と書かれてありますが、過去に数名の議員の皆様から一般質問でも取り上げられましたが、その後、対馬市、県教育委員会、保護者との話し合いなど、現在の進捗状況がどのように進んでいるのか答弁をお願いいたします。

最後に、4点目の若者の移住・定住について質問させていただきます。

今、全国的にも人口減少の問題はどここの自治体も抱えている問題であります。対馬市でも皆誰もが感じているように、まさにここ数年間で緊急事態に近いような状況になるのではないのでしょうか。

過去3年間のデータを見ていますと、生まれてくる出生数は平均ですが1年間で180名、高齢者を中心に亡くなられていく死亡者数は過去3年間平均で460名、高校卒業後、島外に進学、または就職をされる高校生が100名といたしますと、毎年500名を超える人口減少となり、5年後は、対馬市の人口は2万6,000人を切ると思われております。

今、対馬市も補助金を活用したり、全国に対馬市のPRをして、Iターン、Uターン、移住・定住の促進に取り組まれてはいますが、結果としてなかなか満足していないかと思われれます。

今後、対馬市としまして、組織改革を行い、人口減少対策、移住・定住を専門とした部署を設置をし、民間企業に力を借りるなど、進めていくべきと思いますが、市長の答弁をお願いいたします。

以上、よろしくお願ひいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。対政会、糸瀬議員の質問にお答えいたします。

初めに、保育所における備品及び施設内外の環境整備についてでございますが、現在、公立の保育所につきましては、認可保育所が6施設、僻地保育所が公設民営を含み5施設となっており、その中で、建設後30年以上を経過した施設が5施設ございます。これらの施設におきましては、

施設の老朽化、経年劣化等により、修繕や改修が必要となる箇所が発生している状況ではありますが、保育の安全性を保つため、緊急性及び必要性等を検討しながら対応しております。

そのような中で、施設の備品や遊具施設につきましては、それぞれの状況により優先順位などを検討しながら更新、修繕等の対応を行うとともに、閉園となりました保育所の備品や遊具等についても必要とする保育所での再利用に努めておりますので、今後もこのような備品等の有効利用と併せながら対応してまいります。

次に、空調設備につきましては、毎年、数施設において故障等が発生し、修繕等を行っている状況ではありますが、今後においても、もろもろの状況などを考慮しつつ対応してまいります。

また、各施設の保育室につきましては、空調設備を整備しておりますが、一部の保育所において遊戯室での冷暖房利用に支障が発生している状況もございますので、根本的な改修等が必要と思われる施設につきましては、今後の保育所配置計画を含めた諸条件を基に、全体的な優先順位等を検討し、対応してまいります。

このように、一部の保育所においては老朽化による施設への影響、空調設備の一部不備等が見られますが、今後の保育所運営につきましても緊急かつ必要な改修、修繕等を行うことにより、保育環境の整備に努め、より安心・安全な保育に取り組んでまいります。

次に、人口減少対策についてでございますが、人口減少対策は、本市の取り組む重要施策であり、企業誘致及び移住・定住の推進はその中心的な事業でございます。

まず、大胆な企業誘致をとの質問であります。このことにつきましては、さきの9月定例会の質問でも答弁いたしましたとおり、輸送コストや天候に左右される海上輸送不安などにより、製造業の誘致は非常に困難な状況であります。

しかしながら、近年は観光関連の高級宿泊施設のニーズが高まっており、あらゆるチャンネルを使って、その誘致に注力しているところであります。

また、ソフトウェア業、情報処理サービス業などの情報収集も行っており、製造業以外の企業誘致も模索しているところでございます。

また、新型コロナウイルスの影響で、テレワークの意識と環境が進み、現在、ワーケーション誘致事業も進めているところでございます。

移住・定住の専門部署としては、令和3年4月にしまづくり推進部内に地域づくり課を新設しております。

また、10月には職員1名を増員し、体制の強化を図るなど、移住・定住のための取組強化に努めているところであります。

移住・定住促進対策につきましては、平成29年6月にしまぐらし応援室を設け、移住相談窓口の一元化や、移住ポータルサイトの開設、お試し住宅や定住支援住宅の整備、移住・定住支援

補助金の創設など、積極的に移住支援対策に取り組んできたところであり、移住相談等の業務も増加している状況であります。

移住者の状況は、平成30年が115人、令和元年度が134人、令和2年度が128人と増加傾向であります。

移住・定住促進対策の中でも、生活の根幹となる住居対策が非常に重要であると考えておりまして、定住支援住宅の整備や空き家バンクの登録拡充などに取り組んでおります。

また、空き家バンク制度に関連する施策についての民間企業等への委託につきましては、島内での関連企業の動向等を注視しながら、事業効果が見込めるような状況になれば検討してまいりたいと考えております。

私のほうからは、以上であります。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 対政会、糸瀬議員の御質問にお答えします。

まず、対馬市子ども夢づくり補助金については、対馬市子ども夢づくり基金を活用し、市内の子供たちのスポーツ活動や文化活動、体験活動、地域間交流活動、就学支援活動等の支援として補助金を交付しております。

議員御承知のとおり、スポーツ活動振興費補助金の交付基準では、市内の予選会を経て県大会に出場する場合、旅行行程1泊2日を上限として算出した旅費の3分の2以内で、さらに県大会を経て九州・全国大会に出場する場合は、旅行行程を3泊4日以内とし、算出した旅費の5分の4以内で補助金を交付しております。

また、オープン大会等に自主的に参加する団体及び個人に対しても、旅行行程1泊2日を上限として算出した旅費の3分の1以内で、年1回を限度として補助金を交付しております。

市といたしましては、県大会出場に係る経費については、基本的には自己負担であると考えますが、県大会へ出場する場合において、対馬からでは前日に本土に移動し、大会に出場する旅行行程がほとんどであります。このようなことから、離島であるがゆえのハンディを支援するとともに、スポーツ活動の振興を図ることを目的に補助金を交付しているところであります。

議員の質問でもありましたように、新型コロナウイルス感染症の影響により、子育て世代の方々においては様々な経済的負担が生じていると存じますが、対馬市は他の自治体よりも多くの補助金を交付しておりますし、子ども夢づくり基金についても限られた財源の中で運用しておりますので、現時点におきましては、交付基準の見直しは考えておりません。

次に、特別支援学校（小・中学部）の設置に関しましては、設置を望む方々の思いを受けながら、設置者である県と協議を重ねていることは、これまでも本会議でお答えしてきたとおりです。

今年に入り、1月7日になりますが、私が県庁に赴き、対馬市に特別支援学校（小・中学部）の設置を願う市長、教育長連名の要望書を平田修三県教育長に直接手渡してまいりました。その際、12月に実施した保護者を対象にしたアンケート結果等を基に、対馬市の特別支援教育の現状や課題、特別支援学校（小・中学部）設置の必要性について説明をしてまいりました。

要望内容につきましては、平田教育長にも御理解をいただき、今後は就学が見込まれる児童生徒数の経緯を見据えながら、設置場所の選定も含め、設置に向けて総合的に検討していただくことを確認しております。その後、第二期長崎県特別支援教育推進基本計画第一次実施計画の中に新たな取組として、対馬地区における小・中学部設置の検討、このことが記され、2月17日の県教育委員会会議で承認をされております。

今後も、県と市が連携を図りながら、設置に向けた取組を進めてまいります。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） まず、特別支援学校のほうから一問一答で質問をさせていただきたいと思えます。

先ほど、教育長のほうから報告がありましたように、今年に入って、1月の7日、県庁のほうに市長と教育長で行かれたと、そういうふうには先ほど答弁がありました。これは、まず一歩進んだ大変よいことではないかと思っております。この特別支援学校に向けて、やはり対馬市がずっと、数年前からこの問題は、ほかの議員さんも含めて一般質問等でされておられたと思えます。

数年前、嘆願書が島内8,829名、島外9,006名の合計1万7,835名の嘆願書が出ており、昨年2月の県議会でも県教育長が、対馬市教育委員会と連携し、協議を進めながら設置の可能性について検討していくと答弁をされております。その後、教育長、そして市長も9月に一般質問をされた伊原議員さんの答弁の際にも、設置に向けた運営の在り方など、具体的な協議を進め、保護者の意見を十分に聞き、設置に向けて県に働きかけていくと、それで1月の7日に行かれたと思えます。その後、まず対馬市内に各特別支援学校の生徒数、これは私の資料にございますように、小学校で82名、中学校で34名の障害を持って学校に通われているお子さんがいらっしゃいます。このように、毎年この数字はほとんど変わっていかないような数字の中で、やはり今後、これは絶対進めていかななくてはならない問題だと思っております。

そこで、教育長や市長さんに確認をしたいのですが、今、こういった学校で、特別支援学校に通われているお子さんの教室なり、状況なりを視察されたことはございますか。そこを答弁お願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 県のほうの特別支援学校ですか。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） いいえ、市内です。

○教育長（永留 和博君） 市内には、特別支援学校高等部の分教室はありますけれども、小学部、中学部はありませんので、特別支援学級ならばちょくちょく訪問をさせていただいております。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 確かに今、支援学級のほうで障害者のお子さんを見ておられます先生、介助員の皆さん、やっぱり大変な思いをされて、一生懸命取り組んでおられます。

2学期にアンケートを取られたという、保護者から、先ほど答弁がございました。そのアンケートの内容、教育長は見られて、どのような内容が書かれていましたか。お願いします。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 12月に取ったアンケートは、対馬市に特別支援学校の小・中学部を設置した場合に、お子様を通学させられますかというふうな内容でアンケートを取らせていただきました。

結果としては、県が求めている10名前後の特別支援学校の児童生徒数にアンケートでは達したような結果となりましたので、その結果を受けて、1月上旬に県の教育長に直接、要望書を手渡したところです。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） アンケートの結果は、10名前後が毎年行けるといような結果の内容だったということですね。分かりました。

それでは、やっぱり設置の、あとは問題は場所になってくると思います。この設置の場所につきましては、やはり対馬市でいろいろな新築を建てるとなると、予算がかかるでしょう。私は、廃校になった施設とか様々あると思います。やはり豊玉地区に今、塩浦小学校、また、今後は廃校となる南小学校とか、いろいろ廃校の学校があると思います。そこら辺を踏まえて、厳原方面から、そして上対馬方面から送迎バスを利用してその学校に通うことができる、そのような体制づくりが一番いいのではないかと私は思っております。いろいろと保護者の意見も聞きながら、県とも協議を進めながら、これはスピード感を持ってやってもらわないと、障害を持って育てています保護者は、やっぱり毎日、対馬市にいつできるのか、いつ設置してもらえるのか、大変期待しております。教育長さんも、市長さんも、本当、今までずっと、昔から問題になってきた特別支援学校の設置、小・中学校、今、高校は対馬高校のほうに虹の原の分校がございましたけれども、できれば小中高一貫となった体制づくりが保護者も望んでいると思います。教育長さん、どうでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 私も小・中学部をぜひ設置をして、小中高と連携した特別支援教育が

できればということは望んでおります。それから、先ほど議員が言われましたけれども、廃校を利用するということは、今のところ考えておりません。といいますのは、廃校利用ならば、もうすぐできるのですけれども、子供たちを隔離してしまうという形になりますし、将来を見据えたとき、ほかの障害を持っていない子供であるとか、いろんな子供たちと接しながら育てていくということが子供にとっても非常によいということで、できれば小学校や中学校の校舎の中に特別支援学校の小・中学部を設けるというふうな方向で、今、県とは協議を進めております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） そうすると、新しくどこかに新設を計画をしているという考えでよろしいですか。小中高の、そういう意味でよろしいですか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 新たに特別支援学校として新しい校舎を造るというふうな計画ではありません。既存の小学校や中学校に併設をした形で準備を進めていきたいというふうに県とは確認をしております。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 分かりました。それでは、今の教育長の答弁は分かりました。

それと、やはり今、小学校、中学校で島外に、大村とかに行かれています保護者、子供たちも含めて、やはり夏休み、春休み等は寮が閉まるということで、みんな保護者が連れて帰ってくるわけですが、そういった休み期間に預けられる施設、そういったのも市長、検討してもらえないでしょうか。そういった保護者は、やはり休み期間は自分で、夏休みとかは見なければならぬということで、一番負担になっている部分があるのですけれども、市長、どのようなお考えをお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに、夏休み等につきましては、帰省をされて各家庭で教育をされていると思いますけれども、このことについて市のほうでどのような対応が可能なのかは、まだ私も詳しく勉強もしておりません。そういうことで、今後そうなったときに、市としての対応がどのような形になるのかは、いろいろと今後、まず調査、勉強から入って検討してまいりたいというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 分かりました。これは保護者から出た御意見でございますので、ぜひ前向きに検討していただきたいと思います。

それと、このような特別支援学校を、今、美津島地区の保護者の方が子供の思いを書かれた手

紙が、ある議員さんを通して私のほうに来ておりますので、この手紙を読ませていただきたいと思います。これは、小学校1年生、今度2年生に上がられるお母さんから頂いた手紙でございます。

長男が我が家に生まれてきて、育てるということ以外にも、いろんなことを考えながら今までやってきました。重い障害を持っているから、生まれて育ったところで大きくなれない。そうではなく、自宅から行ってきます、行ってらっしゃい、おかえりなさい、ただいま、そういう当たり前の生活をしたい。地域の皆さんにとっても育てていただきたい。ただそれだけなんです。楽しいときは一緒に笑いたい、できるようになったことを共に喜びたい、成長をそばで見守りたい、できることなら、長男より一日でもいいから長く生きたい、いつも私はそう思っています。障害を持って生まれてきた子供たちの未来に、その家族に、就学に対する不安が少しでも軽減されるよう、将来の選択肢が少しでも広がるよう、対馬にも特別支援小学部・中学部ができることを切に願います。今回、このようにお伝えする機会を頂けたことに深く感謝しています。私たちの思いを、声をよろしくお願いいたします。

このようにお母様から手紙を頂いております。ですから、やはりこのような保護者の皆さん、対馬全島、まだまだたくさんいらっしゃいます。そういう思いを含めて、ぜひ一日でも早い特別支援学校の設置に向けて、市長をはじめ教育長さん、スピード感を持ってやっていただきたい。よろしくお願いいたします。

市長、最後に、このケーブルテレビを見られています保護者の皆様に強いメッセージをお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この特別支援学校の小学部・中学部の設置につきましては、私もこのことについてはぜひ対馬市のほうに創設をしまいたいということで、これまでも申し上げてまいりました。

先ほど、教育長のほうからも答弁がございましたように、県の教育委員会のほうでも検討するということが示されたところでありますので、今後、議員おっしゃられるように、できる限り早い段階でこの夢が実現するように努力をしまいたいというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ありがとうございます。

次に、保育所関係の環境整備について質問させていただきます。

今、対馬市の子育て世代への支援とか、いろいろと行っていただいていると思いますが、今、対馬市に在籍をされていますこども園、保育所、僻地保育所、幼稚園など、約1,000人ほどいると認識をしております。今、コロナ禍で保育施設等も休園等が全国的にされておりますが、



この保育施設にどのような感染対策等を保護者に通達をされているのか、御答弁のほうをよろしくお願いします。

○議長（初村 久藏君） 福祉保険部長、乙成一也君。

○福祉保険部長（乙成 一也君） お答えいたします。

保育所のほうにいろいろ、コロナにおける注意事項、どのような通知をしているかということでございますけれども、コロナの感染者等が発生したごとに、県からの通達事項を各保育所、また、こどもクラブとかに、そこら辺に通知をしておるところでございます。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 今、答弁いただきました。それで、この保育所の設備関係なんですけれども、やはり昨年度、福岡のほうで、保育所の送迎バスの中で幼い子供が亡くなられたという事故がございました。その中で、近年、このように大変地球も温暖化で気温も高い状況の中で、やはり保育所内の気温も、大変、子供たちも熱い中遊んだり、やられている状況でございますけれども、対馬各地、いろんところが保育所の施設もやっぱり老朽化をしております。特に、上県町、佐須奈保育所、仁田保育所、ここの部分につきまして、私も視察に行きました。やはり保育所内のテーブルとか椅子、そういったものも古いものもありますけれども、やっぱり使う、それを旧保育所の、廃校になった保育所から持ってきた部分とかいろいろ見ました。やはりそういったものを、点検をよくしていただいて、同じ通わせる保護者にとりましては、平等に扱っていただきたいということが希望でございます。

それと、やはり空調設備、佐須奈保育所と仁田保育所には、部屋にはございますけれども、遊ぶフロア、そこには空調設備がございません。ぜひ一度、もう一度点検をしていただいて検討して、6月の補正予算でも組んでいただいて、早急に施設にエアコン等の設置を考えていただきたい。市長、答弁のほうをお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この保育所関係の設備関係でございますけれども、特にその中でも佐須奈保育所、そして仁田保育所につきましては、遊戯室専用の空調設備がないとお聞きしております。そういう中で、隣の保育室のほうからの窓を開けて今、利用しているということはこの前、私も聞いたものですから、こういうことではちょっと、やはり大事な子供を預かる上では申し訳ないというようなことで、佐須奈保育所、そして仁田保育所については再度調査をして、6月補正になるかどうかは分かりませんが、できる限り早い段階で改修か、また、新設かを含めて実施をしてみたいというふうに指示をしております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ぜひ一度、保育所内で検討されて、点検をして前向きに進めていただきたいと思います。と思っています。

次に、今、保育所は僻地保育所というのが対馬市内に5か所あると思いますが、この僻地保育所に通われるお子さんたち、これは今、弁当を持参で行かれていると思うのですが、ほかの保育所は御飯のみ、こども園もそうですけども、御飯のみの持参ということですが、この御飯と弁当の違いを少しお聞かせ願いたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 福祉保険部長、乙成一也君。

○福祉保険部長（乙成 一也君） お答えいたします。

僻地保育所に関しましては、確かにおっしゃるとおり、今、弁当を持参していただいている状況でございます。このことについては、全体的な保育環境の中でどのような形にしていこうかというの、一応、検討はしております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） いろいろ、僻地保育所にも多いところと少ないところの人数がございすけども、極力、朝の保護者の負担を減らしていただきたいと思います、そのように検討していただければいいかと思っております、よろしく願いしておきます。

それと、今の子育て世代につきまして、いろいろと対馬市も支援をしていただいていると思いますが、私からの、対馬市独自の支援として3つのお願いをしたいのですが、これは検討課題としていただきたいのですが、まず出産の、やはり子供を、人口減少の問題がありますけども、まず出産の3人目のお祝い金として、これはやっぱり10万と私は言いますが、できるだけ3人目ぐらいからお祝い金をつくっていただきたい。そして、やはり独り親世帯がございす。そういった方々にも小学校入学時にランドセル等の補助金、全額ではございませんけども、一部、ランドセル等の補助金等の対馬市独自の補助金体制、そしてやはり子供たちが遊べる遊具施設や公園が対馬島内各地、これは保護者が一番要望されていることとございす。これは教育委員会関係になりますけども、やはり遊具施設の、そんなに大きくない公園で構いません。小さい公園でも、遊具がそろって遊べる公園がやっぱり保護者は欲しいと言っております。もう一度、教育長さんをはじめ教育委員会の方々には、予算も確かにありましようけども、よろしく願いとしておきます。教育長さん、よろしく答弁のほうをお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 遊具施設につきましては、全市的なバランスであるとか、そういう老朽化の具合であるとかを検討しながら、また今後、事務局内で考えていきたいというふうに思い

ます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ありがとうございます。

次に、夢づくり基金、この分につきましては6月の私の一般質問の際と全く変わっておりません、答弁のほうは。やはり今、経済的に非常に厳しい状況でございます、コロナ禍で。今、夢づくり基金の活用と言われますけども、今、対馬市に基金の残高が約162億円ほど12月末であると思います。この基金は取崩しとか、そういったいろんなところの予算に、令和4年度に組み込まれております。例えば、2年間でも、限定でも構いませんので、こういった保護者が大変な状況の中に、そういった基金を切り崩して旅費等のほうに充てていただけないか、そこを市長、答弁お願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 先ほど、基金の取崩しということでもありますけども、当初予算を組むときは、この基金の中から二十七、八億取り崩して当初予算を組むことになっております。そしてまた、先ほどから夢づくり基金についてのまだ上乘せということでもありますけども、対馬市が今、実施している子供たちへの夢づくり基金については、長崎県下でも突出して高い補助を行っておりますし、他の離島につきましても、どことは言えませんが、1人当たりも定額で7,000円から8,000円とか、宿泊関係では5分の2とかいうことでもあります。このことについては、市としても将来の対馬をつかさどる、そしてまた、将来の対馬を運営していく大事な子供たちでありますので、できる限りの助成はしていきたいという思いは強く持っておりますけども、ただ、これが青空天井みたいにできるものではないということは御理解をお願いしたいと思います。先ほど、教育長のほうから答弁いたしましたように、対馬市のほうでは本当はかなりの高額な補助ということで御理解をお願いしたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） ほかの自治体に比べたら、対馬市は出しているということを先ほど答弁をされましたが、やはり五島にしても、壱岐にしても、対馬に比べれば長崎に近い立地条件でございます。五島にしては、すぐフェリーで行けば長崎市内に到着をする、対馬はやはり船を乗り継いで、福岡から先生たちがレンタカーを借りて長崎まで行かれています。そして、前日に到着して一泊をします。そしてまた、大会が終了後、また福岡回りでフェリーを利用して対馬に帰ってくるという、最低2泊は必ずするわけです。1泊で帰ってくるという、まずあり得ないわけです。それで補助金の基準が見られたら分かるように、全てレギュラーのみです。補欠の選手は補助金がありません。オープン参加という大会の補助金は、オープン参加という、皆、予選会がないということです。全てレギュラーのみの大会で、年に1回しか出ておりません。そ

こを私は言っているわけです。必ず2泊をするわけです。だから、1泊を上限とするというのがおかしいということ、私はそこを見直してほしいわけです。そして、高校生につきましても、中学生につきましても、やはり一番今、お金がかかる時期なんです、保護者にとりましては。だから私は、コロナ禍だから2年間を限定でと言っているわけです。市長はこの施政方針でも、やはりコロナ禍に対する経済的措置としてやっていくと、まさにこれが経済的な措置だと私は思うのです、保護者に対する。もう一度、この交付基準は、私は諦めません、この交付基準の見直しは、よろしいですか、教育長。私は、これは任期中、4年間は絶対諦めませんので、それはずっと言い続けますので、子供たちのためでございます、保護者のためでございます、よろしく願いいたします。

次に、最後の移住・定住につきましてですけども、時間もあと3分でございます。この移住・定住につきましては、先ほどの市長さんも答弁で言われましたとおり、大変、人口減少も今、対馬市は喫緊の課題だと言われております。これはやはり、人口減少対策として、一度には無理です。2025年、市長は3万人を目標にすると、第2次総合計画にも書かれていますが、これはまず厳しい数値であると思っております。だから、今いる対馬市の2万8,500人、この人たちを島外に出さない方法、これをまず考えていかなければいけないと思います。亡くなられている方はやはり高齢、仕方がございませんけども、高校生、中学生を中心とした島内にいる生徒、これを対馬内でどうか残ってくれと、そういった思いを伝えていかないと、どんどん減っていくと思っております。

私はやはり、予算委員会からの各委員が言われていますように、ビッグボス、MISIA、そういった対馬出身の方々を、全国にPRを、CMを打って、対馬に来てくれと、そういったPRをCMでやってほしい。そうすることによって、全国の皆さんが、そういった予算を市長、つけていただいて、新庄も今、監督で大変でしょうけども、そういった人を利用するではないけども、クイーンビートルで昨日の話がありました。このクイーンビートルで新庄監督とともに旅行ツアーとか、そういった企画をやれば、私はもっと対馬に人を増やせる方法ではないかなと思っております。

今回は、第2次総合計画の中で、ひとづくりについて――ブザーが鳴りましたので、時間がなりましたけども、みんなが主役になる希望の島を目指して、私ども議員も、行政側も市民と一緒に頑張っていきたくて思っております。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、対政会の会派代表質問は終わりました。

以上で、本日予定しておりました会派代表質問は終わります。

暫時休憩いたします。11時10分から再開いたします。

午前10時56分休憩